

先月は、皆様の 温かな御理解と御協力を頂きまして、「保育参加」から始まり、「花の日こどもの日礼拝」「ピカピカにしよう！」など、様々な行事が 目白押しの一と月となりました。その中でのひとつ、毎年恒例の『同窓会』が 今年も 賑やかに開催されました。身も心も 頼もしく成長した6年生から ほんの3か月前に 元気に巣立って行ったピカピカの1年生までの 大勢の卒園生達が、一堂に会するこの日は 私たち保育者にとっても、まるで タイムマシンに乗り 一瞬で時が逆戻りしたような 何とも言えない喜びと 懐かしさに 心躍る至福の想いで 胸がいっぱいになります。どの子ども皆 久しぶりに会った瞬間は ちょっぴり緊張したような はにかんだ表情をしています。挨拶を交わした途端、昔と変わらない愛らしい笑顔がよみがえります。学年や学校や性別などの違いにも こだわることなく、すぐに 打ち解けて 話したり 遊んだりしているのも、屈託のない“つのぶえっこ”ならでは の姿かもしれません。年に1度、本当にささやかな再会ですが、 保育園に“帰って来る”というこの時を 何日も前から楽しみにして いつも とっても待ち遠しく思っていると聞き、改めて ここは 子ども達の 大切な心の故郷になっているのだなあと しみじみと思いました。

これまでには、開催時期を 夏休み中や クリスマスの頃にしたり、内容についても 昔を思い出しながら 園舎内外で ひたすら遊んだり、来年もまた必ず会おうと約束し 学年別で タイムカプセルを作り 園庭に埋めて 翌年 発掘できて(笑) 大喜びしたり、数年前からは 園庭での野外炊飯や 部屋でのクッキングで 食べることを楽しんだり、毎回、いろいろなプログラムを 企画しながら 行ってきたのですが、いつの頃からか どの子どもの表情にも 保育園時代には感じられなかった 翳りのような変化に 気付き それが いったい何であるのか、私自身も とても気になり始めていました。ちょうど 同じ頃に 卒園生の保護者の方々から 学校でのいじめについて 相談を受けることが 頻繁になり、希望を抱きながら ここを旅立って行った、愛する 卒園生一人ひとりの 笑顔を想いながら、そのすべての歩みに 神様の祝福があるよう祈る毎日になりました。その中で 気づかされ 考えさせられたことは、子ども達は今、激しい荒波の中に出て 闘っているのだ、この保育園で 温かで優しいあふれる愛に包まれながら 育ててきた 自分の心を 一生懸命に守りながら、神様に祈る心を信じて 精一杯 生きているのだと。保育園と全く違う 価値観や 悪意に戸惑い 傷つき 悩み 立ち止まっている子ども達を いとおしく想いながら その心に 応えてあげなければならないと思いました。そこで 昨年から 同窓会の構成を 一新させ、それぞれの心に抱えている “何か” を表すこと “語ること” を中心にした内容に変えることにしました。卒園の御祝に 贈った聖書を それぞれが持参し 保育園の時と同じように 讃美歌を歌い 主の祈をささげ 神様に 祈り、聖書の話をもとにした DVD を鑑賞し、神様のお話を聞くことから始めました。その後 学年ごとに 分かれ 元担任を交えて 今思うことを自由に 分かち合いました。すると 「学校は 保育園と全然違う」「先生は アテにならない」「ハブられたくない (仲間外れになりたくない)から ホントは イヤだなと思って 皆と同じことをする」 などなど 他愛ない会話の中に 子ども達の ありのままの心が見え隠れし だんだんと 子ども達の顔が 確実に 明るくなるのが わかりました。解決も 結論も 何もない ただ 話すだけの 僅かな時間ですが それこそが 大切な のかもしれないと思われています。人は人と話し 人に聞いてもらい 共感し合えることで 癒され 生きる力に変えられる ことを イエス・キリストの姿を通して 思いを馳せながら すべての子ども達の上に 神様の 豊かな祝福がありますよう心からお祈りします。 (石田 記)

「自分にしてもらいたいと望むとおり 人にもそのようにしなさい (ルカ6:31)」